令和３年度　第１回ぐんま再発見講座

遠隔講座

淵名姫、赤城姫、伊香保姫
―上野神話（こうづけしんわ）を彩る三女神―

佐藤　喜久一郎

１、赤城山をめぐる著名な伝説

⑴赤城姫の物語（赤城山御本地）

『神道集』に収録された「上野国勢多郡鎮守赤城大明神事」。高野辺家の姫君たちの悲劇の物語。入水し大蛇となった悲しいお姫様の話。『赤城山御縁起』『赤城記』『赤城山御本地』などとして「在地縁起」としても享受された。「在地縁起」は『神道集』所収話に形態が近い「縁起系」と、六段構成の「語り本系」とに分類される。それら写本は東上州一円に点在。▶「在地縁起」の世界とは？

⑵神戦伝承など

・日光山と赤城山の合戦（神を助けた話として著名なもの）▶俵藤太伝説との関連性。赤城神は蛇か百足かという議論　▶『神道集』にない理由

・「沼争」の話。伝説として現在も容易に収集可能。『神道集』にも収録される。赤城大沼と伊香保沼の神が石や木を投げ合う。▶『神道集』の赤城神、伊香保神のイメージとの齟齬。別起源の話か。

⑶一宮と赤城神の話

天竺から飛来してきた一宮の女神と赤城神との物語。一宮を譲った理由。▶赤城神の土着性の是非。『金槐和歌集』「上野の勢多の赤城のからやしろ　やまとにいかであとをたれけむ」との矛盾　☆矛盾した内容を持つ多様な伝説←赤城信仰の複雑さ、普遍性の表れ

２、『神道集』「上野国勢多郡鎮守赤城大明神事」「上野国第三宮伊香保大明神事」について

⑴物語の概要

・テーマ

　高野辺家の悲劇。特に高野辺大将の三人の娘、渕名姫、赤城姫、伊香保姫の悲劇的最後を描く

・あらすじ

　「上野国勢多郡鎮守赤城大明神事」

①とある理由で勢多郡深栖に流されていた高野辺大将家成は、その間に三人の娘（渕名姫、赤城姫、伊香保姫）と一人の息子（高野辺中納言）を儲ける。

②奥方がなくなり、継母が信州の更科家からやってくる。

③継母に子供が産まれる。高野辺大将家成が罪を許されて上京している間に、継母とその弟（更科次郎兼光）が三人の娘の殺害を企てる。

④継母たちはまず、淵名姫と赤城姫の後見人である淵名二郎と大室太郎を赤城山の狩に誘って殺し、淵名の館を襲って淵名姫を捕らえ倍屋ケ淵に沈める。

⑤大室の屋敷を逃げ出した赤城姫は乳母と赤城山に逃れるが、遭難して飢えに苦しみ、不思議な女房（赤城大沼の主）の導きで赤城沼に入る。伊香保姫だけが伊香保太夫に守られて生き残っている。

⑥家成は都から下向する途中で娘たちの事件を聞き、倍屋ケ淵を訪ねると娘の姿が現れる。悲嘆した家成も淵に身を投げて死ぬ。

⑦伊香保太夫は羊太夫に命じてことのあらましを高野辺中納言に告げる。中納言は都の軍勢を連れて上野国に戻り、復讐をはたす。継母は信濃に追放され、山で雷に打たれて死ぬ。

⑧高野辺中納言は赤城大沼を訪れ、すでに神となった家族に会う。そして、沼の辺りに神社を建立する。名残惜しく三夜も逗留したので三夜沢と呼ばれる。

⑨高野辺中納言は伊香保姫と後見人の伊香保太夫に上野国を託す。伊香保姫は国司になって自在丸という場所に住む（後の総社）。

「上野国第三宮伊香保大明神事」（後日譚は省略）

①伊香保姫は高野辺中納言の妻の弟にあたる高光中将という人と結婚し、娘も産まれて幸せに暮らしていた。

②伊香保姫が淵名姫たちを弔っての帰り道、現国司の大伴大将は伊香保姫の姿を一目見て邪悪な思いに囚われ、自分のものにしようと企む。

③大伴大将は軍勢を率いて伊香保太夫の屋敷を攻撃する。伊香保太夫たちは児持山に逃れるが、高光中将は深手を負っており伊香保太夫の長男と一緒に命を落とす。

④伊香保太夫がことの次第を帝に報告したため、上野国司は再び伊香保姫となり、伊香保太夫の後見のもと再び国を治める。伊香保太夫は亡くなった人たちを神社に祀り、寺をたてて高光中将を供養した。高光中将と伊香保姫の娘は天皇の妃となり、皇子を生んで人々から尊敬された。

⑤その後、伊香保太夫夫妻は大往生を遂げてなくなり、残された二人の娘（石童御前と有御前）は伊香保姫と一緒に暮らしている。寺も栄えて水沢寺と呼ばれた。

⑥女性たちの夢に神になった高光中将や伊香保太夫夫妻が現れる。伊香保姫は沼に身を投げて自らも神の世界に行こうとし、石童御前と有御前もその後を追う。

⑦のちに水沢寺の別当が伊香保姫の夢を見て、人々が神になったことを知る。

⑵民俗か文学か

○「上野国勢多郡鎮守赤城大明神事」「上野国第三宮伊香保大明神事」の特徴

①地域の神々の由来と前世を説明

国司一家

・高野辺大将家成…赤城大明神（小沼）、本地虚空蔵菩薩

・赤城姫（赤城御前）…赤城大明神（大沼）本地千手観音

・伊香保姫…伊香保大明神　男体　本地薬師如来、女体　三宮　本地十一面観音

・中将の姫君…若伊加保大明神　本地千手観音

国司の部下

・大室太郎夫婦…従神王子宮

・伊香保太夫…早尾大明神　本地千手観音

・伊香保太夫の妻…宿禰大明神

・伊香保太夫の息子たち…九箇所社

・伊香保太夫の三人の婿…三所明神

・有御前…有御前

・石童御前…石童明神

・羊太夫

②民間伝承との深い関わり

・地名の説明譚

　三夜沢…国司が三夜逗留したため

小鳥島…赤城姫たちが鴨の翅に乗って現れる。鴨は島となる。

伯母捨山…更科の甥が伯母にあたる継母を捨てた場所

その他「上野国第三宮伊香保大明神事」においては伊香保温泉の由来譚、伊香保富士出現の理由などが補足的に語られる▶当時の人々に知られた伝説だったのか

・寺社の由来譚

　自在丸…今の総社のこと

　水沢寺…高光中将の供養のために建立

・現在の伝承との関係

　沼争…赤城と榛名の喧嘩

　姫君の入水…木部姫伝説、赤堀道玄伝説　▶どちらが先なのか？　龍神が世代交代される伝説の意味。地域や時代による伝承の変化。

③上野国の神話として

　国司や目代など上野国の支配層にあたる人々が登場し、悲劇的な最後を遂げ、神になる。

　神になって以降も国を守り、地方民衆の崇敬の対象となる▶誰がなんのために民間伝承を上野国の物語として語り直したのか？『神道集』の物語は民

間伝承との関係が深いが民間伝承そのものではない。現代の民俗世界との直接的連続性を確認できない。

学生からの質問

１、悲しいお話が多いのはどうしてですか？

２、群馬県だけに『神道集』のような本が残っているのはなぜですか？

３、神社なのに仏様なのはどうしてですか？

４、伝説の中身はなぜ時代ごとに違うのですか？

５、悲しいお話は最近人気がないのはどうしてですか？